

10

## わかやま

和歌山教区報

通巻530号

行  
発  
和歌山教務支庁  
〒640-8137  
和歌山市吹上  
3丁目2番46号  
Tel 073-436-4445  
Fax 073-436-4443  
E-Mail  
・wakayamakyoku  
@ptano.ocn.ne.jp  
・w.kouhoubu  
@gmail.com

## 『心を澄ます毎日を。』

青年会委員長 西浦 修

今年も連日猛暑の中、こどもおぢばがえりが賑やかに開催された。私は「どうぞ」青年会のひのきしんで『東右第一棟カレー食堂』の誘導係として汗を流させていただいた。

カレー食堂は3つあり、その中でも少しだけ離れて

いる場所にあり、普段は専修科生などが使用する『おやさとやかた』の4階講堂に臨時に用意されている場所である。公には「食堂」として使用する場所ではない為、『カレー食堂』の看板を出す事ができない。少し特殊なひのきしん場所だ。

帰参された団体は受付の際、カレー食堂を指定出来ない為、「東右第一棟カレー食堂」と聞いて、「え? どう?」となる方が天理教の会長さん達の中でも多い。しかも看板も出でていないのだ。

ある日、団体責任者であろう男性が怪訝な顔で「ここってこのカレー食堂であつてる?」と聞いて来られた。「はい、あつてますよ」と言つと、「看板くらい出してくれんとわからへんやん」と注意いただいた。そこで、「申し訳ありません」と低姿勢でその理由を簡潔に説明させていただいた。

すると、「おーなるほど! そんな理由ならしやあない

よな! ハハハ!」「苦勞様!」と笑顔になりカレー食堂に入つて行かれた。人は、なにか不都合な事が起つた時に、その原因がわからない事がストレスになる。不安や怒りという感情が湧き上がつてくる生き物だと思う。明らかに体の調子が悪いのに、病院で原因がわからないと診断された時や、約束の時間に相手と連絡がつかない時などがそれである。しかし、親神様は答えを教えて下さっている。全ての原因は心にあると。そして、「その心を澄まして欲しい」と仰る。

青年会本部では、かしもの・かりものの教えを心に治める努力を発端とし、誰にでもわかりやすいよう意識しやすいようにと『心を澄ます毎日を。一ほこりを減らして誠を増やす』を基本方針に掲げている。

その為には、自分の心に矢印を向けるという事が非常にポイントになつてくる。「その人のせい」から「その人のお陰で」と変化していくことが大切だ。

そんな毎日を送る中で、少しでも親神様の思いに沿い、自分の心と行動を変える事で、不思議なたすかりという御守護をみせていただけた。今回の青年会総会では誰かのたすかりを願つて集結しようと呼びかけている。一人では陽気ぐらしは出来ない。人と関わりたすけあう中で、お互いの心が澄み、眞の陽気ぐらしに近づいていくんだと信じている。

『心を澄ます毎日を。』

